

## 被災地への職員の派遣状況

### ◎ 消防庁現地対策本部（小千谷市）

消防庁本庁、消防大学校の職員とともに、現地対策本部（緊急消防援助隊）において、災害対応等に関する業務の支援を行っています。

10 月 24 日	2 名	
10 月 25 日	2 名	
10 月 26 日	1 名	
10 月 27 日	2 名	緊急消防援助隊による長岡市妙見堰救出活動現場に臨場し、レスキュー活動を斜面災害の専門家の立場から支援
10 月 28 日	2 名	
10 月 29 日	1 名	
10 月 30 日	2 名	
10 月 31 日	1 名	
11 月 1 日	1 名	
11 月 2 日	2 名	
11 月 3 日	1 名	
11 月 4 日	1 名	
11 月 5 日	2 名	
11 月 6 日	1 名	
11 月 7 日	1 名	
11 月 8 日	1 名	
		<u>合計 23 人日</u>

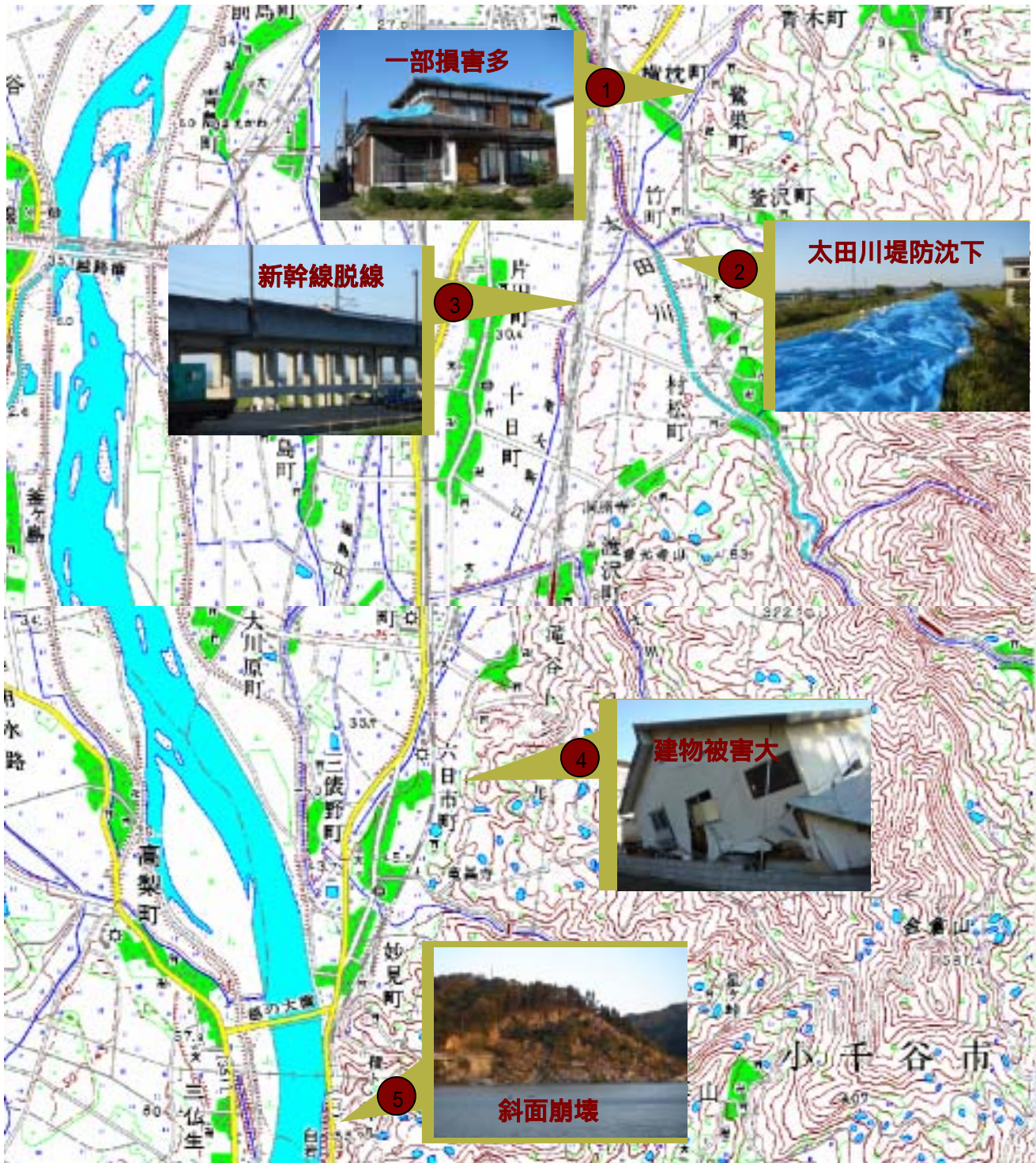
### ◎ 現地調査

消防庁からの要請又は自主的に現地調査を実施しています。

10月27日～10月30日	5名	( <a href="#">火災調査</a> )	
10月28日～10月30日	4名	( <a href="#">被害状況調査</a> )	
11月3日～11月6日	1名	※東京大学地震研究所,清水建設技術研究所と共同実施	
11月5日～11月7日	4名	※ただし11/6は5名で実施 (被害状況調査等)	
11月6日～11月8日	2名	(救助状況調査)	
11月18日	1名	(被害状況調査)	
11月18日～11月19日	1名	(被害状況調査)	<u>合計 58人日</u>

新潟県中越地震における「被害状況」、「応急対策本部、消防、住民などの活動状況」の概要把握を目的として、小千谷市川口町及び周辺地域で調査を行った。主な調査地点と代表的被害例を下図に示す。

## 1. 被害状況





曲ったレール

道路、鉄道被害大

液状化

建物被害大

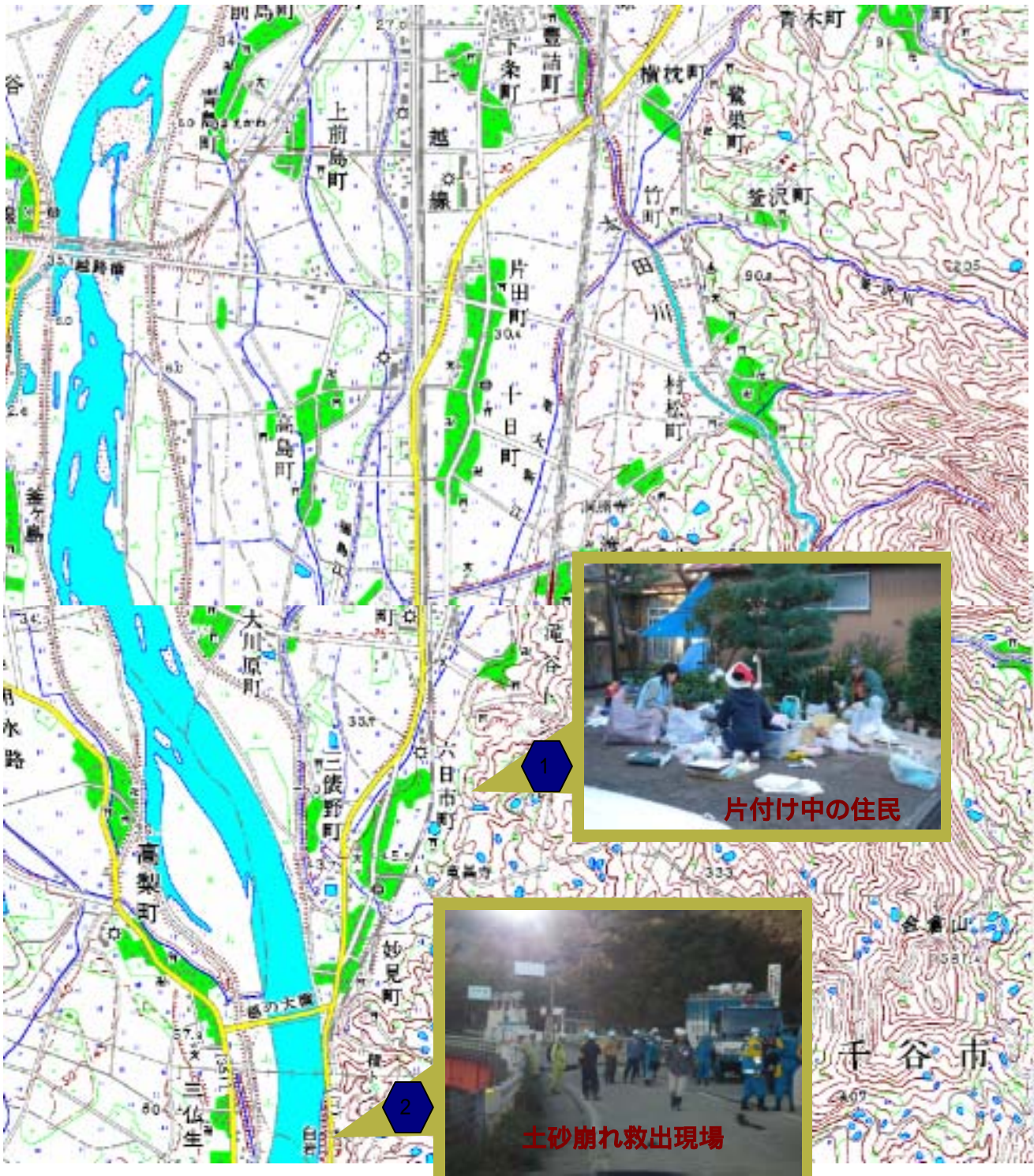
和南津トンネル被害通行止め

土砂崩れ

橋梁被害

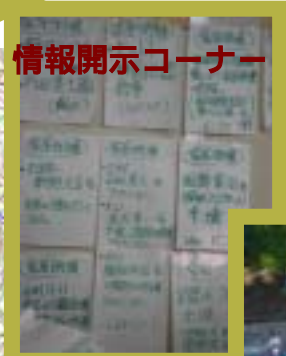


## 2. 災害対策本部、消防、住民などの活動状況





活動状況の続き:



### 3. まとめ

新潟県中越地震の概略把握を目的とした本調査をまとめると、以下のとおり。

土砂崩れをはじめ、列車脱線、トンネル被害、建物崩壊などの多様な地震被害が認められた。また、建物被害程度が相当大きい地域においても、火災(炊事時間帯)や人的被害が比較的に少ないように感じた。マイコンメーターなどの減災効果も考えられるが、住民の地震直後の行動などによるものも大きいのではないかと考えられる。今後、地震時の住民の防災行動を調査、整理、分析することが重要である。

この地震においては、多発火災、多数の救急・救助事案等に対して、全国的な消防活動が展開されてきている。しかし、消防関係機関の全体はどれほどの情報を共有できたのか、またどれほどの連携を取れたのかは把握できていない現状にある。今後、災害対応活動における防災資源(情報、人員、資機材)のそれぞれの内訳、必要量及び運用状況(情報伝達、時間軸における人員、資機材の運用状況)を整理することが必要となろう。災害対策本部においては、様々な関係機関、組織の活発な対応活動が見られるが、救援物資の搬送や、情報伝達、開示のためなど、多くの人々による混乱も見られた。災害直後における有効な人員利用、物資調達を運営するための情報システムの整備が重要であると実感した。

避難所に関しては、2500～3000人規模の避難所においても、テレビが2台しか置かれず、1台のテレビの周りに多くの住民たちが囲んでいる様子が見られた。また、テレビの情報は一方的に流すという特性があり、必ずしも住民のニーズに合った情報を提供しているとは限らない。今後、避難所の運用に関して、双方向情報の提供仕組み及び情報内容の抽出などが研究課題になると考えられる。